

〈原著論文〉

## 子どもと家族の QOL 研究 ——過去 10 年の QOL 尺度を用いた研究の現状——

村 上 純 子

### 抄 録

---

近年、子どもと家族の QOL 研究は様々な角度から行われている。特に保健医療分野において、様々な疾患の患者とその家族に対する総合的ケアの提供を行うためにも、患者と家族の QOL 調査研究は重要である。本研究では過去 10 年間に日本において行われた、子どもに関わる QOL 尺度を用いた研究の現状を明らかにし、子どもと家族の QOL に関する今後の研究の方向性を検討した。その結果、子どもと家族の QOL については、母親だけでなく父親も対象とした研究、子どもの発達段階と QOL に影響をもたらす要因の研究、特定の疾病の子どもと家族を対象とする場合、その疾患や障害の症状に合わせた QOL 質問紙による研究の必要性が示唆された。

---

キーワード：子どもの QOL, 家族, QOL 尺度

### はじめに

子どもが健やかに育つために、ある程度の生活の質が保たれているということは重要である。子どもの Well-Being には、家族をはじめ、学校、友達など子どもを取り巻く環境が不可欠かつ重要な要素である<sup>(1)</sup>。特に家族が子どもに安心安全な環境を提供できる状態にあるかは、子どもの QOL に大きな影響を及ぼす。それと同時に、子どもの健康状態や学校や社会の中での状態もまた、家族の QOL に影響を与えるという相互作用が働く。このような観点から、子どもと家族の生活の質 (QOL) については様々な角度から研究が行われている。

また、慢性疾患や身体的・精神的障害など、長期にわたって医療従事者が関わることになる疾病においては、患者とその家族の生活の質 (QOL) を考慮しながら治療にあたることが必須である。そのため、保健医療分野において、様々な疾患の患者とその家族に対する総合的ケアの提供を目的として患者と家族の QOL 調査研究が行われている。

QOL の研究方法は面接や事例研究などを用いるものもあるが、自己回答式質問紙による調査が

多く行われている。質問紙による調査は一度に多くのデータを得ることができるため、広くQOL研究を進めるには適当である。その中でも標準化されているQOL尺度は対象者の年齢に応じた自己回答式質問紙となっており、調査に用いやすいという利点がある。さらに、それを用いた調査研究は国内外で行われており、異文化間での比較検討も可能である。特に医療分野においては、QOL研究のメリットとして、患者が自分の状況を主観的に評価し、専門家からの客観的情報をもとに効果的な意思決定ができることが挙げられている<sup>(2)</sup>。つまり、患者自身がQOL評価を自ら行うことによって、自分の健康状態を意識し、積極的に治療に取り組むという効果も期待できる。

本研究では過去10年間に日本において行われた子どもに関わるQOL尺度を用いた研究の現状を明らかにし、子どもと家族のQOLに関する今後の研究の方向性を検討する。

## 1. 目的

本研究の目的は、日本において、過去10年間の、子どもとその家族を対象としたQOL尺度を用いた研究の現状を明らかにすることである。さらに、小児の保健医療分野において、患者とその家族に対する総合的ケアの提供のために必要な研究の方向性を検討することである。

## 2. 方法

### (1) 文献検索方法

2020年7月までの過去10年間に発表された国内文献を、医学中央雑誌 Web Ver.5を用いて検索した。キーワードは「QOL」「家族」「子ども」とし、症例報告・事例を除いた原著論文のみの検索を行った結果、110件の文献が得られた。このうち、タイトルおよび抄録から本研究に適する論文を選び出し75文献に絞り込んだ。さらに、研究方法として、子どものいる家族に対するQOL尺度を用いた調査研究を行った論文のみを抽出し、25件に絞り込んだ。

### (2) 分析方法

対象となった文献を、発表年、調査対象者、用いたQOL尺度について整理し、表にまとめた。その際、調査対象者と研究目的の類似性に基づき分類した。

## 3. 結果

### (1) 研究対象

対象文献25件を研究内容から大きく2つに分類すると、一般の子どもと家族を調査対象とした

ものが13件(表1)、疾病や障害のある子どもと家族を調査対象としたものが12件(表2)であった。

表1 QOL尺度を用いた研究(対象:一般の子どもと家族)

発表年	論文タイトル	著者	調査対象者	使用された尺度	投稿誌
親	2018	高木悦子	妊娠、出産を迎えた夫婦	(親)・対児感情尺度 ・SF-36 ・CES-D(うつ病自己評価尺度)	小児保健研究, (2018), 641-648, 77(6)
	2012	大橋幸美 他	1歳6ヵ月児の母親	(母)・PSI-SF(育児ストレス) ・WHO QO26 ・FAI(家族機能)	家族看護学研究, (2012), 2-12, 18(1)
	2011	桐野匡 他	未就学児を育児している共働き世帯	(母)・夫婦関係満足感尺度 ・GHQ-12(精神的健康) ・健康関連QOL満足度尺度	厚生指標, (2011), 1-8, 58(3)
	2016	前田尚美 他	6歳未満の子どもを養育する母親	(母)・WHO QOL26	母性衛生, (2016), 357-365, 57(2)
	2010	山本理絵	第5回「愛知の子ども縦断調査」(2009)に回答した小3, 小5	(子)・Kid-KINDL	人間発達学研究, (2010), 37-52, 1
	2016	上出香波	公営住宅に居住する小学生	(子)・Kid-KINDL	共立女子大学家政学部紀要, (2016), 165-172, (62)
	2016	Igura K 他	公立中学校の1年生～3年生	(子)・Kiddo-KINDL	子どもの健康科学, (2016), 17-25, 16(2)
	2015	石塚理香 他	私立初中等教育学園の小学4～6年生, 中学生, 高校生	(子)・KIDSCREEN-52 ・食生活等生活習慣調査票	小児保健研究, (2015), 939-947, 74(6)
	2013	柴田玲子 他	小学校の2～6年生とその保護者	(子)・Kid-KINDL ・PART(絵画愛情関係テスト) (親)・KINDL for Parents	小児保健研究, (2013), 274-281, 72(2)
	2011	山本理絵 他	第5回「愛知の子ども縦断調査」(2009)に回答した小3, 小5とその母親	(子)・Kid-KINDL (母)・子育て不安及び学校関連不安に関する質問項目	人間発達学研究, (2011), 29-41, 2
	2016	上出香波 他	小学生児童とその保護者	(子)・Kid-KINDL (親)・社会関係資本, 経済状況	小児保健研究, (2016), 196-202, 75(2)
	2018	上出香波	小学生児童とその保護者	(子)・Kid-KINDL	共立女子大学家政学部紀要, (2018), 157-164, (64)
	2019	平谷優子	小学5年生と中学2年生およびその保護者	(子)・PedsQL (親)・PedsQL保護者レポート	小児保健研究, (2019), 209-219, 78(3)

表2 QOL尺度を用いた研究(対象:疾病・障害のある子どもと家族)

発表年	論文タイトル	著者	調査対象者	尺度	投稿誌
2010	1型糖尿病をもつ子ども/青年のQOLと親のQOL, 血糖コントロールの関連	中村伸枝 他	1型糖尿病の小3~22歳の子ども/青年とその保護者	(子)・HR-QOL ・DR-QOL (親)・PDQOL	日本糖尿病教育・看護学会誌, 14(1), 4-10.
2017	先天代謝異常症児と家族の生活の医療社会面および健康関連QOLの実態 質問紙調査より	山口慶子 他	7歳~20歳の先天代謝異常症児とさきようだい, および主たる養育者とその配偶者	(子)・KINDL (親)・WHO QOL26	厚生省の指標, (2017), 33-44, 64(7)
2010	構造方程式モデリング手法を用いた気管支喘息をもつ子どものQOL, 概念モデルの検討	石黒彩子 他	10~18歳の気管支喘息の子どもの	(子)・JSCA-QOL	医学と生物学, (2010), 218-226, 154(4)
2015	食物アレルギーを有する子どもを養育する母親のQuality of lifeに関する検討	秋鹿都子 他	0~6歳の食物アレルギーを有する子どもとの母親と, 食物アレルギーを有さない子どもとの母親	(母)・WHO QOL26	日本小児アレルギー学会誌, (2015), 169-180, 29(2)
2016	PedsQOLを用いた夜尿症の子どものQOL評価 子どもの自己評価と親による代理評価	望月貴博	8歳~18歳未満の夜尿症の子どもの保護者	(子)・PedsQL (親)・PedsQL 保護者レポート	夜尿症研究, (2016), 55-60, 21
2017	非単一症候性夜尿症患児の心理・社会的QOLの検討	池田裕一 他	5歳~12歳の非単一症候性夜尿症の子どもの保護者	(子)・PedsQL (親)・PedsQL 保護者レポート	日本小児腎臓病学会雑誌, (2017), 14-20, 30(1)
2018	慢性疾患を抱える子どもをもつ親の就労実態および健康関連QOL (Quality of Life)との関連	入江亘 他	慢性疾患(小児がん, 血液疾患, 炎症性腸疾患, リウマチ疾患, 免疫疾患, アレルギー疾患)の子どもの保護者	(親)・SF-8	北日本看護学会誌, (2018), 1-11, 21(1)
2010	ハイリスク新生児の長期フォローアップに伴う諸問題 新生児期に外科手術を受けた子どもの両親における心理社会的予後	小杉恵 他	新生児期に小児外科において手術を受け, 学齢期以上となった6歳3ヵ月~17歳11ヵ月の子どもの家族	(親)・IES-R (改訂版出来事インパクト尺度) ・WHO QOL26	日本周産期・新生児医学雑誌, (2010), 1182-1183, 46(4)
2011	自閉スペクトラム障害の幼児をもつ母親の育児ストレス, 子どもの行動特徴, 家族機能, QOLの現状とその関連	浅野みどり 他	自閉スペクトラム障害(ASD)の子どもの養育する母親	(母)・PSI-SF (育児ストレス) ・FAI (家族機能) ・WHO QOL26	家族看護学研究, (2011), 157-168, 16(3)
2013	障害のある子どもと家族の感情表出とQOLに関する研究 幼児期と学齢期の家族の比較	米倉裕希子 他	障害(広汎性発達障害, ダウン症, 脳性まひなどの身体障害)のある幼児期, 学齢期の子どもの家族	(親)・FAS (Family Attitude Scale) ・SF-36	関西福祉大学社会福祉学部研究紀要, (2013), 77-84, 16(2)
2019	学齢期の障がい児を育てる母親の就労状態・就労希望と健康関連QOLの関連	松澤明美 他	特別支援学校に通う子ども(自閉症・発達障がい等(知的障がいがある子どもを含む)), 知的障がい等, ダウン症候群, 脳性まひ・てんかん等, その他)の母親	(母)・SF-8	小児保健研究, (2019), 445-452, 78(5)
2019	学齢在宅重症心身障害児の主養育者とその配偶者それぞれのQOLとその関連要因	藤岡寛 他	学齢在宅重症心身障害児の主養育者とその配偶者	(親)・SF-8 ・FACESKG-IV (家族機能尺度) ・J-FES (家族エンパワーメント測定尺度)	日本重症心身障害学会誌, (2019), 169-176, 44(1)

慢性疾患

外科疾患

障害

一般の子どもと家族を対象とした QOL 尺度を用いた研究をさらに調査対象者別に見ていくと、親のみを調査対象としたものが4件、子のみを対象としたものが4件、親と子両方を対象としたものが5件であった。

親を対象とした調査研究では、周産期の父親と母親<sup>(3)</sup>、1歳6カ月の幼児を養育している母親<sup>(4)</sup>、未就学児を養育している共働き家庭<sup>(5)</sup>、6歳未満の未就学児を養育している母親に対する調査<sup>(6)</sup>とといったように、子どもの年齢と子育てが親の QOL に与える影響に関する調査が行われていた。

子どもに対しては、学校へ行きたくないと思うことがあるという「不登校意識」<sup>(7)</sup>、公営住宅という住環境<sup>(8)</sup>や地方都市部という地域特性<sup>(9)</sup>、食習慣や睡眠などの生活習慣<sup>(10)</sup>といった視点からの検討が、小学生から高校生に対して行われていた。

親子を対象とした調査では、子どもの感じる QOL と親が認識する子どもの QOL との差の検討<sup>(11)</sup>や、母親のとらえる子どもの特性（発達障害につながる特徴）と子ども自身の感じている QOL との関連<sup>(12)</sup>、親のソーシャルネットワークや経済的要因<sup>(13)</sup>、近所付き合いや経済的余裕<sup>(14)</sup>、相対的貧困<sup>(15)</sup>が子どもの QOL にどのように影響しているのかという視点からの研究が行われていた。

次に、疾病や障害のある子どもの家庭を対象として QOL 尺度を用いた研究をさらに疾病・障害別に見ていくと、慢性疾患の子どもを対象にした研究が7件、外科疾患の子どもを対象にした研究が1件、障害のある子どもを対象にした研究が4件であった。

慢性疾患の子どもの研究には、I型糖尿病の子どもとその親の QOL を調査した研究<sup>(16)</sup>、先天代謝異常症の子どもときょうだい、その家族の QOL を調査した研究<sup>(17)</sup>、気管支喘息の子どもを対象とした研究<sup>(18)</sup>、食物アレルギーの子どもと母親とそうではない母親の比較研究<sup>(19)</sup>、夜尿症の子どもを対象とした研究<sup>(20)(21)</sup>などのように、特定の疾患のある子どもを対象にした研究と、疾患を特定せずに慢性疾患の子どもと親を対象とした調査研究<sup>(22)</sup>があった。また、I型糖尿病の子どもと親の調査研究では DR-QOL（I型糖尿病の学童から青年の糖尿病に関連した満足度質問紙）<sup>(23)</sup>と PDQOL（Parents diabetes quality of life）質問紙<sup>(24)</sup>、気管支喘息の子どもと親の調査研究では JSCA-QOL（Japanese school-aged children with asthma QOL Questionnaire）と、それぞれの疾患特有の症状を考慮した QOL 尺度を用いて研究が行われていた。

外科疾患の子どもと親の研究は、新生児期に外科手術を受けて一定期間（6～9年）経過した子どもと親の心理・社会的問題、PTSD 症状と現在の生活の質について調査したもの<sup>(25)</sup>であった。

障害のある子どもと親の研究は、子ども自身の QOL を調査したものではなく、その子どもを養育する親や家族の QOL を調査しており、自閉症スペクトラム障害（ASD）に限定して母親の QOL を調査したもの<sup>(26)</sup>と、障害を限定せず、児童デイサービスや特別支援学校に通う子どもと親を対象としたものがあった。後者の対象には、自閉症・発達障害、広汎性発達障害、知的障害、ダウン症候群、脳性まひ、てんかん<sup>(27)(28)</sup>、重症心身障害<sup>(29)</sup>などが含まれていた。

## (2) 使用された QOL 尺度

前述のように、特定の疾患に対して用いられる QOL 尺度を用いた研究は、I 型糖尿病と気管支喘息の 2 件であった。

保護者自身の QOL を測るために一番多く用いられていたのは WHO QOL26 (WHO Quality of Life 26) であった。これは WHO を中心に開発された質問紙であり、世界的に広く用いられている尺度である。次に多く用いられていたのは、SF-36 (MOS Short-Form 36-Item Health Survey) とその短縮版である SF-8 であった。これはアメリカで開発され、170 か国以上で翻訳されて使われている尺度である。この他に、中嶋らが開発した健康関連 QOL 満足度尺度<sup>(30)</sup> が用いられていた (表 3 参照)。

表 3 保護者自身の QOL 測定に使用された尺度

	一般	慢性疾患	外科疾患	障害	合計
WHOQOL26	2 件	2 件	1 件	1 件	6 件
SF-36	1 件	0 件	0 件	1 件	2 件
SF-8	0 件	1 件	0 件	2 件	3 件
健康関連 QOL 満足度尺度	1 件	0 件	0 件	0 件	1 件

子どもの QOL を測るために用いられている QOL 尺度は大別して 2 種類あり、子ども自身が回答するものと、保護者が自分の子どもの QOL について評価するものがあった。それぞれの件数は表 4 のとおりである。

表 4 子どもの QOL 測定に使用された尺度

	一般	慢性疾患	合計
KINDL	7 件	1 件	8 件
KINDL for Parents	1 件	0 件	1 件
PedsQL	1 件	2 件	3 件
PedsQL 保護者レポート	1 件	2 件	3 件
KIDSCREEN-52	1 件	0 件	1 件

最も多く用いられているのは、KINDL であった。これはドイツで開発され現在 20 か国語以上に翻訳されており、子どもの年齢に合わせた質問紙と保護者が回答する形式の質問紙があり、身体的健康、精神的健康、自尊感情、家族、友達、学校生活についての満足度を測ることができるものである。次に多く使用されていたのは PedsQL であった。PedsQL はアメリカで開発され、約 80 か国語に翻訳されているモジュラー方式の尺度であり、包括尺度 (コアスケール) のみでも使用でき

るが、その他に測定する対象者の特徴や疾患に合わせた尺度（疾患特異モジュール）がある。このため保健医療分野において比較的多く用いられている。最後に、KIDSCREEN-52 はヨーロッパ 13 か国で共同開発された尺度であり、約 40 か国で翻訳されて使用されているものである。

#### 4. 考察

成人の QOL が注目され研究が始められた当初は子どもの QOL 研究はそれほど盛んではなかったが、1995 年頃から小児科医とコメディカル・スタッフの連携による子どものトータルケアの重要性とその効果が認識されるようになり、小児科分野で子どもの健康関連 QOL に着目した研究が行われるようになった<sup>(31)</sup>。過去 10 年間に行われた子どもと家族の QOL 尺度を用いた研究は 25 件であり、十分に行われているとは言えないものの、一般の子どもとその家族や、様々な疾病や障害のある子どもとその家族を対象に、様々な角度からの研究が行われてきている。

特筆すべき点は、一般の親を対象とした調査研究では、母親のみならず父親に対しても QOL 尺度の調査が行われていることである。周産期から未就学児の子どもがいることが父親、母親双方の QOL に関わっているという視点は非常に重要であろう。今後も母親だけでなく、父親も対象とした QOL 尺度を用いた研究が期待される。この点に関しては、疾病や障害をもった家庭を対象とした調査の多くは母親を対象としているか、保護者や養育者を対象としているがその回答の 7, 8 割が母親によって回答されたものであった。しかし、主たる養育者とその配偶者を対象とした研究も 2 件あり<sup>(17)(29)</sup>、その中では主たる養育者に与える影響とその配偶者に与える影響の差異なども検討されていた。現在の日本では、疾病や障害の看護、介護は母親に求められることが多く、母親の QOL 研究が進むことも大切であるが、同時に子どもの疾病や疾患が父親の QOL にどのような影響を与えるのかについても今後研究されていくことが期待される。

また、一般の子どもと家族を対象とした研究は、小中学生に対し多く行われていた。中学生の QOL が、家族以外の友達や地域住民との交流に影響されていると報告されている研究<sup>(9)</sup>もあるように、子どもが成長するほど、その QOL に与える家族の影響が減り、それ以外の他者が与える影響が大きくなっていく。今後も子どもの発達段階と QOL に影響をもたらす要因の研究などが行われていくと、子どもの Well-Being を考える上でよい示唆が得られるであろう。

今回、特定の疾患用に作られた QOL 質問紙を使用した研究は 2 件であった。特定の疾病の子どもと家族を対象とした研究の場合、その疾患や障害の症状に合わせた QOL 質問紙を用いることも重要であろう。包括的な尺度では拾いきれない要因によって子どもと家族の QOL が影響されることが十分に考えられるからである。また、質問紙を用いることで患者が自分の健康状態を意識し、積極的に治療に取り組むという効果を考慮すると、その疾病や障害に合わせた質問紙の方がより効果的であると言えよう。例えば、PedsQL モジュールで日本語訳されているものには、気管支

喘息, 脳腫瘍, がん, 末期腎不全, 倦怠感の QOL 尺度がある。一方で, 心疾患, 筋ジストロフィー, てんかん, 神経線維腫, 神経筋疾患, リウマチなどの疾患に対応したものはまだ邦訳されていない。今後これらの QOL 質問紙が邦訳されて, 調査研究や実際の治療などに用いられていくことが期待される。

## まとめ

本研究では過去 10 年間に日本で発表された, 子どもと家族の QOL 研究の原著論文を分析し, その現状や傾向から, 今後の研究の方向性について検討した。その結果, 子どもと家族の QOL については, 母親だけでなく父親も対象とした研究, 子どもの発達段階と QOL に影響をもたらす要因の研究, 特定の疾病の子どもと家族を対象とした研究の場合, その疾患や障害の症状に合わせた QOL 質問紙による研究の必要性が示唆された。

## 引用文献

- (1) Unicef 「An overview of in rich countries」『Dimension Contemporary German Arts And Letters』7号 2007 pp. 1-48. <http://www.york.ac.uk/inst/spru/pubs/150/>.
- (2) 松田智大・野口真貴子・梅野裕子・加藤則子 「小児保健と QOL 研究 現状と今後の課題」『日本公衆衛生雑誌』53巻, 11号 2006 pp. 805-817.
- (3) 高木悦子 「妊娠期と産後における父母の健康度と子どもへの感情との関連」『小児保健研究』77巻, 6号 2018 pp. 641-648.
- (4) 大橋幸美・浅野みどり・門間晶子・古澤亜矢子 「1歳6ヵ月の子どもの行動特徴と母親の育児ストレス・QOL・家族機能との関連」『家族看護学研究』18巻, 1号 2012 pp. 2-12.
- (5) 桐野匡史・朴志先・近藤理恵・佐々井司・高橋重郷・中嶋和夫 「共働き世帯の父親の育児参加と母親の心理的 well-being の関係」『厚生指針』58巻, 3号 2011 pp. 1-8.
- (6) 前田尚美・山本八千代・草野知美・須藤桃代・笹尾あゆみ・市川正人・小池伝一・伊織光恵・関口史絵・三田村保 「乳幼児を養育する母親の QOL と影響要因」『母性衛生』57巻, 2号 2016 pp. 357-365.
- (7) 山本理絵 「小学生の心身の健康状態に関する調査研究—不登校意識との関連を中心に」『人間発達学研究』1巻 2010 pp. 37-52.
- (8) 上出香波 「公営住宅に居住する子どもの QOL の実態」『共立女子大学家政学部紀要』62号 2016 pp. 165-172.
- (9) Igura, Kazumasa・Miyazaki, Tsutako 「日本の地方都市部における中学生の QOL に関する研究 (Study on Quality of Life (QOL) in Junior High School Students in Provincial Urban Areas of Japan)」『子どもの健康科学』16巻, 2号 2016 pp. 17-25.
- (10) 石塚理香・岩坂英巳・牧野裕子・根津智子 「子どもの食を中心とした生活習慣と健康関連 QOL との関連」『小児保健研究』74巻, 6号 2015 pp. 939-947.
- (11) 柴田玲子・根本芳子・松寄くみ子・板橋家頭夫 「小学生版 QOL 尺度による QOL の低い子どもたちの特徴 ソーシャル・ネットワークからみた子どもの人間関係について」『小児保健研究』72巻, 2号 2013 pp. 274-281.
- (12) 山本理絵・神田直子 「子どもの特性と QOL 及び母親の子育て不安の関連に関する研究—「第 5



- 回愛知の子ども縦断調査」結果分析より一」『人間発達学研究』2巻 2011 pp.29-41.
- (13) 上出香波・上出直人 「子どもの生活の質と親の社会関係資本に関する横断研究」『小児保健研究』75巻, 2号 2016 pp.196-202.
- (14) 上出香波 「子どもの生活の質 (QOL) における内的要因と家庭環境との関連 将来の夢の有無に着目して (The Relationship Quality of Life of Children and Internal, Family's Environment Factors: Focusing on the Presence of Dreams for the Future in Children)」『国立女子大学家政学部紀要』64号 2018 pp.157-164.
- (15) 平谷優子 「相対的貧困世帯の子どもの健康関連 Quality of Life」『小児保健研究』78巻, 3号 2019 pp.209-219.
- (16) 中村伸枝・松浦信夫・佐藤浩一・佐々木望・兼松百合子 「1型糖尿病をもつ子ども / 青年の QOL と親の QOL, 血糖コントロールの関連」『日本糖尿病教育・看護学会誌』14巻, 1号 2010 pp.4-10.
- (17) 山口慶子・涌水理恵・江守陽子・窪田満 「先天代謝異常症児と家族の生活の医療社会面および健康関連 QOL の実態 質問紙調査より」『厚生指針』64巻, 7号 2017 pp.33-44.
- (18) 石黒 彩子・浅野 みどり・杉浦 太一・三浦清世美・山田知子・石井真・城憲秀 「構造方程式モデリング手法を用いた気管支喘息をもつ子どもの QOL 概念モデルの検討」『医学と生物学』154巻, 4号 2010 pp.218-226.
- (19) 秋鹿都子・山本八千代・竹谷健・黒坂文武・亀崎佐織 「食物アレルギーを有する子どもを養育する母親の Quality of life に関する検討」『日本小児アレルギー学会誌』29巻, 2号 2015 pp.169-180. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jspaci/29/2/29\\_169/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jspaci/29/2/29_169/_article/-char/ja/), (参照 2020-06-24).
- (20) 望月貴博 「PedsQL を用いた夜尿症の子どもの QOL 評価 子どもの自己評価と親による代理評価」『夜尿症研究』21巻 2016 pp.55-60.
- (21) 池田裕一・小宅千聖・大貫裕太・平林千寿・布山正貴・渡邊常樹 「非単一症候性夜尿症患児の心理・社会的 QOL の検討」『日本小児腎臓病学会雑誌』30巻, 1号 2017 pp.14-20.
- (22) 入江亘・塩飽仁・鈴木祐子・井上由紀子 「慢性疾患を抱える子どもをもつ親の就労実態および健康関連 QOL (Quality of Life) との関連」『北日本看護学会誌』21巻, 1号 2018 pp.1-11.
- (23) 中村伸枝・松浦信夫・佐々木望・佐藤浩一・宮本茂樹・兼松百合子 「1型糖尿病の学童から青年の「糖尿病に関連した満足度 (QOL)」質問紙の検討」『日本糖尿病教育・看護学会誌』9巻, 1号 2005 pp.4-13.
- (24) Faulkner, Melissa Spezia・Clark, Frances Sholar 「Quality of Life for Parents of Children and Adolescents With Type 1 Diabetes」『The Diabetes Educator』24巻, 6号 1998 pp.721-727.
- (25) 小杉恵・山本悦代・小林美智子・窪田昭男・野瀬恵介・平野慎也・白石淳・北島博之・福寿祥子 「ハイリスク新生児の長期フォローアップに伴う諸問題 新生児期に外科手術を受けた子どもの両親における心理社会的予後」『日本周産期・新生児医学会雑誌』46巻, 4号 2010 pp.1182-1183.
- (26) 浅野みどり・古澤亜矢子・大橋幸美・吉田久美子・門間晶子・山本真実 「自閉症スペクトラム障害の幼児をもつ母親の育児ストレス, 子どもの行動特徴, 家族機能, QOL の現状とその関連」『家族看護学研究』16巻, 3号 2011 pp.157-168.
- (27) 米倉裕希子・作田はるみ・尾ノ井美由紀 「障害のある子どもの家族の感情表出と QOL に関する研究 幼児期と学齢期の家族の比較」『関西福祉大学社会福祉学部研究紀要』16巻, 2号 2013 pp.77-84.
- (28) 松澤明美・江尻桂子 「学齢期の障がい児を育てる母親の就労状態・就労希望と健康関連 QOL の関連」『小児保健研究』78巻, 5号 2019 pp.445-452.
- (29) 藤岡寛・涌水理恵・西垣佳織・松澤明美・岸野美由紀 「学齢在宅重症心身障害児の主養育者とその配偶者それぞれの QOL とその関連要因」『日本重症心身障害学会誌』44巻, 1号 2019 pp.169-176.

- (30) 中嶋和夫・香川幸次郎・朴千萬 「地域住民の健康関連 QOL に関する満足度の測定」『厚生指標』50 巻, 8 号 2003 pp. 8-15.
- (31) 柴田玲子・松崎くみ子・根本芳子 「子どもの健康関連 QOL の測定— KINDLR QOL 尺度の実用化に向けて—」『聖心女子大学論叢』122 巻 2014 pp. 27-52.

## An analysis of research in the last decade using the quality of life scale for children and families

Junko MURAKAMI

### Abstract

---

Research on the quality of life (QOL) of children and families has been conducted from various perspectives in recent years. In particular, healthcare-based QOL investigations of patients and their families are crucial for the comprehensive provision of care to patients suffering from varied ailments and their families. This study analyzed and classified the extant research related to children using the QOL scale. This research was conducted in Japan over the last decade. It examined the potential directions of prospective QOL studies of children and their families. The outcomes suggested three possibilities: First, studies targeting fathers in addition to mothers are expected. Second, the developmental stages of children, and the factors that affect QOL must be investigated. Finally, there is a palpable need for further investigations targeting children and families dealing with specific diseases or disorders and using a QOL questionnaire tailored to the symptoms of those afflictions.

---

**Keywords:** children's QOL, family, QOL scales